



2024（令和6）年1月20日発行
 （編集）愛光本部企画室
 （TEL）043-484-6391
 （メール）<https://www.rc-aikoh.or.jp/>

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、施設の生活も、外出や帰省、行事等、以前と同じように行われるようになりました。感染症対策に引き続き取り組みながら、以前の生活に戻りつつある一年でした。

法人の事業所でも、クリスマス会や忘年会が行われ、この1年を振り返りました。

□事業経過など（2023.12.1～）

日	曜	法人(本部・共通)
1	金	メンター委員会/本部実績会議/スタッフ会議
4	月	嚙下研修
5	火	業務執行会議
6	水	地域食堂委員会/広報委員会
7	木	BCP 研修/法人採用試験
8	金	ボランティア委員会
9	土	評議員会
11	月	2年目交流会/嚙下研修
12	火	防災委員会/衛生委員会/感染症対策委員会
13	水	コ・ヒューマントレーニング
14	木	研修委員会/GHPT
16	土	山王みらいP
18	月	嚙下研修
19	火	佐倉圏域実績会議
20	水	障害者支援事業部実績会議/財務P/栄養改善委員会/地域食堂ともいき(お弁当販売)
21	木	淑徳大学実習前授業
22	金	愛の灯台基金運営委員会/佐倉市専用水道立ち入り検査
26	火	法人コンプライアンス委員会/地域福祉事業部実績会議
28	木	年末挨拶まわり/高齢者福祉事業部実績会議/はちす苑経営改善委員会

■おもな出来事

□内定者懇親会

来年度4月1日採用予定の新任職員懇親会を開催しました。午前中にオリエンテーション、午後には法人の事業所見学も行ないました。懇親会によって法人の理解を深め、今もっている不安が軽減され、仕事への期待、希望をもって4月の入職を迎えていただきたいと思います。

■月報から

□クリスマス会（ルミエール）

22日にルミエールクリスマス会が行われた。今まで、ホームごとでの行事であったが、久しぶりになのはな広場で利用者全員集合して行うことができた。事前に担当職員が利用者の思いを形にしたプレゼントを用意して、サンタクロースとトナカイから利用者全員にプレゼントを届けられた。プレゼントのあとは各ホームでおいしいケーキの時間である。職員が考えて利用者のプレゼントを用意する支援について、利用者のニーズをいかに引き出すかとてもよい経験になっていると思う。ある利用者は担当職員とプレゼントの打ち合わせを入念に行っていた。リクエストが「サメのぬいぐるみ」で袋から出した瞬間職員はびっくりしたが、利用者はリクエスト通りのため満面の笑みでサメのぬいぐるみを抱きかかえていた。利用者のニーズはたくさんあり、こちらの予想しないニーズもあるが支援者側の気持ちだけでなく利用者に寄り添った結果が最高の笑顔を引き出すことができたと思っている。

（ルミエール課長 原 宏之）

□活動の広がり（めいわ）

12月の行事といえば忘年会である。この数年、みんなが集まったの食事は控えていたが、今回は2階の広い部屋に利用者全員が集まり、食事を兼ねて忘年会を開催した。ちらし寿司にオーードブル、ジュースいろいろ、まさに宴会。久しくこのシチュエーションで食事を経験していない職員はあたふたしながらも、利用者は楽しそうに食事をしていった。余興は〈イントロクイズ〉と〈めいわのそれ知ってるクイズ〉…今年の実習生は何人来たか？職員の〇〇さんの子供は何人？実家は何屋？「何番だと思う人！」→「はい」（なぜだか皆よく知っている）活気あふれる楽しい会になった。

（めいわ課長 中田 憲一郎）

□ここで作ったのか（根郷通所センター）

千葉市の民生委員が見学に来た際、『酒々井パーキングエリアで商品を購入した！』という方が居られたとのことである。陶芸棟に入った瞬間の一声目が『ここで作ったのか！』であったとのこと。酒々井パーキングエリアで購入した商品が福祉施設で作られた物であったことにも驚きを感じたようで、想像もしていなかった展開に一同盛り上がったようである。i-koubow!が酒々井パーキングエリアに出店してから一年と少しが経った。数年後、口コミがどのような形で地域の方や関係者に広がっているのか楽しみにしている。

（めいわ通所部所長 菊地 暁生）

□もみの木会（リホープ）

25日 もみの木会を開催した。エレクoonクラブの演奏では、新しく練習したホワイトクリスマスやきよしこの夜など4曲を演奏。アンコールではサライの演奏もあり、思い思いに体を動かしたり、ロずさむ様子が見られた。午前の部はチーム戦の言葉並び替えクイズ、午後の部は自由参加で箱の中身はなんだろうクイズを行い盛り上がった。今回は元実習生の3名にボランティアで参加していただいた。実習していた時の話など、会話も進み、楽しい時間を過ごすことが出来た。

（リホープ課長 稲垣 直子）

□クリスマス会（山王の家）

数年ぶりにクリスマス会を25日夕方から行いました。11月から皆で話し合いを重ね、食べたい物、やりたい事等希望を出し合いました。自分の意見を何とか通そうとする人、中々自分の気持ちと言えない人様々で、職員が間に入りながら意思表示が難しい方もチラシやカタログを指して貰って多数決で決定したり、それぞれが職員に相談したり、調べてもらったりして当日を迎えました。

まずはケーキ作りからスタート。食席もいつもと雰囲気を変えてピザやにぎり寿司、チキンが並びシャンメリーで乾杯。いつもならあっという間に食べ終わるごはんもみんなて話をしながら雰囲気を味わっていました。ケーキは別腹とばかりに食べ進め、いつもなら「歌なんか」と言いそうな方も一緒にクリスマスソングを歌い…待ちに待ったサンタ登場。ゲームでプレゼントをもらう順番が決まるとあってそれぞれ必死に黒ひげを飛ばしていました。

大いに盛り上がり、みんなて考えたクリスマス会は大成功でした。利用者からは終わった途端「来年はあれが食べたい」「プレゼントはもう少し高いもの」などの声上がり楽しさが伝わりました。ここ数年我慢する事も多かったが「パーティー」をみんなて満喫することが出来た夜でした。

（山王の家管理者 岡本 綾子）

□印刷作業、先人との再会（ワークショップかぶらぎ）

かぶらぎが現在の場所に移転することが決まり、本格的に「印刷」を作業として実施する準備に入ったのが2014年前後。いくつかの印刷を行う就労支援事業所を見学した。その一つが八千代市にある「はばたき職業センター」（八千代市身体障害者福祉会）であった。今月、かぶらぎの印刷部門のスタッフとはばたき職業センターの印刷部門のスタッフが互いの業務内容や生産体制について意見交換させていただく機会を設けることができた。

前回見学した時は、まだかぶらぎには案件も経験値もなく、所狭しと並ぶ機器や黙々と作業に従事する利用者の方たちを目の当たりにし、ただただ“こんな風に作業として成立させられるのだろうか”という不安を抱えて終わった記憶がある。あれから約9年、今は捌くに苦労するほど受注案件があり、セットアップ系作業と同等の工賃を印刷部門で稼ぎ出せるようになった。話し合いでは、互いの現在の機材や体制から導かれる強みと弱みを理解することができ、印刷部門として互いに利のある形で協力できる案件のイメージを共有することができた。

個人的には、長年とはばたきに勤めておられるスタッフから「佐倉方面からの受注が減ってきていると感じてはいましたが、かぶらぎさんが活躍されていたからだったんですね！」との言葉をいただいた。素人ではなく同業の良きライバルとして見てもらえたように思え、活力をいただく機会となった。

（ワークショップかぶらぎ主任 宮部 和樹）

□クリスマス会 誕生会（ジョーの家）

11月、12月誕生会が続いている。入居者も世話人の料理を楽しみにされている。クリスマス会は、洋食「ローストビーフ」をメインとした料理を、入居者が全員で集まり、おいしく召し上がることが出来た。食後は、事前にリクエストを聞いて好みのケーキを提供した。

（ジョーの家 高橋 健）

□一年の締めくくり（よもぎの園）

年末最終営業日、忘年会を企画した。12月に入るといつも一年はあっという間という感想を持つが、この数年は「仕事がない」「売上げが上がらない」「稼働率が伸びない」といったネガティブなことが頭から離れなかった。今年に関していえば、作業の忙しさに追われつつもう年末か！といった通常運転の頭に戻りつつある。

毎年の忘年会は皆で食事を楽しみ、頑張りか形になる“年末賞与”が配布される。賞与の配布は共に働いている現場職員からも手渡され皆満面の笑みを浮かべていた。また今回はそれぞれにあった“表彰状”の授与もあわせておこなった。

「なんでも器用に頑張ってくれたで賞」「30(ヘッドホン)の達人で賞」「みんなを癒したで賞」等等。来年は辰年なのでそれに見合うような上り調子のよもぎの園にしていきたい

（佐倉市よもぎの園主任 近藤 真一）

□冬休み到来「ドッチビー大会&じゃんけん大会」（佐倉市南部児童センター）

終業式の午後、多くの小学生たちが元気いっぱいに来館した。待ちに待った冬休みを楽しんでいる様子がよく分かった。この日は、小学生対象のイベント、「ドッチビー大会&じゃんけん大会」を開催した。参加した子どもたちは、40人あまり。プラスして、いつもよりテンションが上がっている分だけ、対応したインストラクターは、普段以上に力が入った。クリスマス企画として、運動が苦手な子どもでも参加できるように、「ジャンケン大会」も開催した。あっという間の1時間。最後はサンタ登場で、プレゼントをもらえるというサプライズつき。これまで、乳幼児親子対象のクリスマス会でのサンタ登場はあったが、はたして小学生の反応は・・・「わ～？」「えっ？」「校長先生？」など様々な反応で、たちまち全員がサンタの周りを囲んだ。收拾がつかなくなるのではと「どうします？丸く並んでもらいましょうか？」などとあたふたしていたところ、サンタの「一列に並んでー」の一声でドーンと一瞬で一列になった。

プレゼントは缶バッチとサンタの小さな人形。みんなのうれしそうな笑顔に元気をもらったイベントとなった。

（南部児童センターインストラクター 吉田 知加子）

□季節行事に取り組む子どもたち（学童保育所）

12月のそれぞれの学童保育所では、クリスマスやお正月に向けてなど様々な取り組みをした。折り紙でのスタンドグラス風の飾り作り、様々な素材でツリーやリース・オーナメント作り、小さなニット帽作り、年賀状書き、そして初めての正月飾り作りなど、それぞれの興味に合わせて取り組んだ。特に正月飾りは、ワラをより合わせて作る本格派で、寒さにも負けず、子どもらが小さな手で、教わって形にしていった。出来上がりはそれぞれに美しく、保護者からも驚きの声が聞かれた。お正月は、手作りの正月飾りで、華やかな玄関になったに違いない。

（学童保育所主任 齋藤 理江）

□地域ケア会議からの発展 ～大崎台 4、5 丁目出前講座（総合相談センター）

3 日（日）、大崎台 4 丁目集会所にて出前講座を行った。8 月に大崎台 4、5 丁目を対象に地域ケア圏域推進会議を開催したが、参加者の方から「まだ話し足りない」、「包括が集会所に来て何かできないか」との意見から、今回出前講座として「安心して暮らせる大崎台を一緒に考えよう」をテーマに行った。

参加者は 8 月の会議にも参加された方々の他、地域の防災助け合いメンバーや元民生委員の方など新たな住民の方も加わり、高齢者の見守りや集会所の活用方法について意見が交わされた。「平時や災害時の見守りについて他の地域はどうやっているのか知りたい」、「オープンデーとして集会所を開放しているが人が来ない。包括と一緒に何かできないか」等、今後の取り組みにも前向きな思いを聞くことができた。包括としては地域での見守りとして認知症声掛け訓練や、介護予防体操や健康測定会など地域でできることを説明し、来年度地域と包括で協力をして実施できるよう計画する予定となった。

（総合相談センター所長 森 由美子）

□クリスマスの盛り上がり イベント風呂「ゆず風呂」（南部地域福祉センター）

地域のボランティアが積極的にセンター建物内を生け花で綺麗に飾っていただいている。また、バンド「NOUT」（ノーツ）のクリスマスコンサートの開催もあり、南部地域福祉センターは、クリスマスの雰囲気を感じることができた。

12 月 22 日の冬至に、沢山のゆずを浮かせたお風呂で来館者を迎えた。また、スタッフから、あらかじめ、直径 20 cm 程ある千葉県特有の大きなゆずを提供してくれたこともあり、当日お風呂を利用された方には、今年の冬の到来を一層感じてもらえたことと思われる。

（南部地域福祉センター 青山 秀人）

□特養・ショート入居者忘年会（はちす苑）

12 月のお楽しみは第三日曜日の『入居者忘年会』である。

今年も希望の多い握り寿司を注文した。マグロ、サーモン、ほたて、いなり寿司など。

各街のお料理はそれぞれ特色が違って楽しんでいた。

花の街はエビと野菜の天ぷら

風の街はきりたんぽとやさいのあったかいお鍋

虹の街は肉、肉、鮭、肉のバーベキュー

普段の給食は温かい料理は温かくして提供しているが、目の前で料理はなかなか見ることが出来ない。香りにつられて食欲もわいたようだ。食べたい気持ちがあっても身体の飲み込む機能が追い付かない方もいることから、顔は笑っていても誤嚥しないか鋭く目を光らせている看護師がいる。

おかげさまで苦しい思いをすることなく事故もなく楽しい宴会は無事終えた。

（はちす苑 管理栄養士 江口 貴子）